

大規模災害発生！避難所生活を余儀なくされたとき

あなたなら、どうする！

能登半島地震！支援活動から見てきたことへ



特定非営利活動法人 奈良県防災士会

能登町白丸地区（2024年3月16日撮影）

はじめに

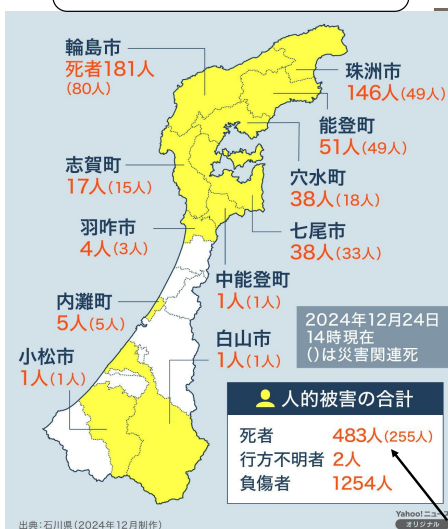
昨年は、日本全国各地で災害が続きました。また、8月には「南海トラフ臨時情報」が発令されたことは皆さんの記憶に残っていることでしょう。まさしく“災害列島日本”なのです。

そして、その都度、私たちの耳に入ってくるのは被害情報と避難所での生活です。特に、避難所の運営をめぐることは、みんなで避難所運営に関わることの重要性が大きな課題となっています。

私たちNPO法人奈良県防災士会は、昨年1月28日から能登半島地震の支援活動に取り組みました。人数は限られてはいますが、それでも、のべ約150名の会員を珠洲市を中心に継続して災害ボランティアとして派遣してきました。

今日は、そのときの避難所支援活動から見てきたこと、災害発生時に自分たちがどう動けば良いのかを、支援活動の報告とともに一緒に考えて行きたいと思います。

能登半島の人的被害 (2024年12月現在)



被災家屋件数 (2025年3月現在)



一、知っておくべき事！

- 地震発生 ⇒ 千人単位の人が一気に押し寄せる！
- 発災直後は、人であふれて横になることすらできない
- 能登半島地震⇒現地では・・・

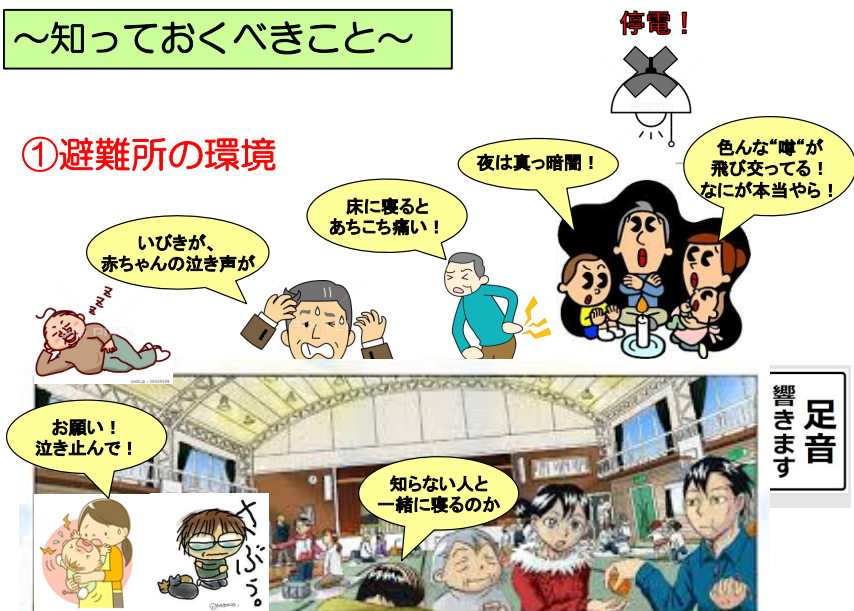
二、避難所の開設・運営は誰が？

三、運営上の配慮と課題

- 避難者の人数把握は？
- 避難所になにが備えられているの？
- 様々な課題への対処は？

～知っておくべきこと～

①避難所の環境



地震災害時の避難所

- 1, 発災直後は住民で溢れる
- 2, 避難所に早く来るのは、
 - ①近隣住民、元気な人や若者
 - ②災害時要援護者と言われる人たちは遅れてくる
 ※ 結果、避難所に入れぬ人が続出
- 3, 運営に必要な物資は、そろっていない



行動の原則

自分が避難所にたどり着いた時には

- 1, 体制を確立する（運営本部）
- 2, できない時は ⇒ まず、**自分が動く**
- 3, 仲間を増やす

<避難> ～正院小学校へ避難したAさんの話～

- ①発災時には家にひとりだった。
- ②地震がおこった時、あわてて家の前の道路にでて、しゃがんでいた。
- ③揺れが治まったので近所の人と一緒に正院小学校（避難所）へ着の身着のまま避難した。
- ④小学校では、寒さをしのぐために窓のカーテンを外して体にまっていたが、まったく明かりがない中で余震が続いたので生きた心地がしなかった。

教訓 ～自分ならどうしたのか、どうできたと思うか？

- あわてて家の前の道路にでて ⇒ あわてて外にでるのは**危険**
- 近所の人と一緒に正院小学校へ ⇒ 隣・近所の**助け合い**
- 着の身着のまま ⇒ **非常持出し袋**は？
- 明かりがない中で、窓のカーテンを外して ⇒ **臨機応変！**

被災者のAさんに案内してもらいました。



能登町：白丸地区の様子（2024年3月16日）



この地域は、津波で大きな被害がでました



二、避難所の開設・運営は誰が？

- 1、自主防災会などの地域住民
- 2、施設管理者（教員など）
- 3、避難所配置職員（自治体職員）

避難所は、災害によって、地域によって、運営する者によって、顔が違うことを知っておこう

事例1 東日本大震災

①仙台市五橋中学校 →運営は、教員

事例2 熊本地震

①益城町総合体育館 →運営はYMCA（施設指定管理者）

②広安西小学校 →運営は、教員

事例3 能登半島地震

①正院小学校 →有志から運営委員会へ

～実例から学ぶ～

能登半島地震 珠洲市正院小学校

発災直後、約800名の避難者が殺到！

～当時の避難者の声～

- 足の踏み場もない
- 横になって寝れない
- 寒さをしのぐ物がない
- 停電で真っ暗

○余震が続いて、恐怖の一晚を過ごした

当初の避難所運営は、近くの公民館館長のご家族3人でスタート

- 直後は、ダンボールベッドを敷くスペースもなかった
- 被災者が自由に動き回ることはいできない
- トイレがすぐに満杯に

～実例から学ぶ～

能登半島地震 支援物資 ～正院小学校では～

発災後、3日ほどして自衛隊から支援物資が届く。しかし・・・。

- 支援物資の保管場所
- 保管場所への搬入
- 支援物資の管理
- 支援物資の配布方法

避難所以外での被災者は・・・。

- 自力で取りに来る人
- 取りに来れない人



国の支援は、プッシュ型です。

珠洲市正院小学校（避難所）の様子：1月28日



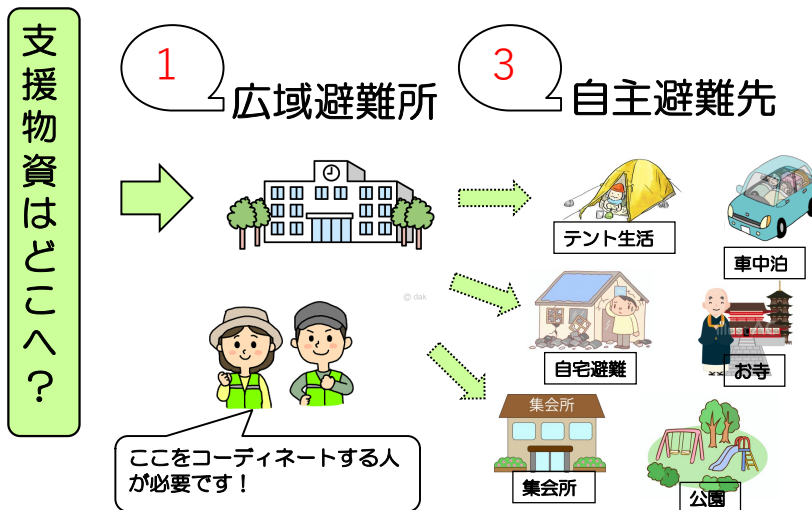
三、避難所運営上の配慮と課題

1、配慮すること

- ①介護などの支援が必要な方への対応
- ②女性への配慮
- ③外国人や性的マイノリティー等への対応

2、指定避難所以外の避難者への対応

避難所と自主避難！



珠洲市正院小学校（避難所）の様子：1月28日



支援物資の管理と配布



国の支援は、プッシュ型！

国は、どんどん送ってきます。
では、支援物資の管理は誰が・・・。

注意！
南海トラフ地震では、国の支援は奈良県
には、しばらく来ないと考えよう！

現地へ行って私が感じたこと

～正院小学校（珠洲市）～

- 1, 運営スタッフの**6割が女性**
- 2, 毎日、**情報共有会議**を開催
- 3, 役割分担の徹底
- 4, 防災士会及びNPOの支援
- 5, **避難所開設の経験**があった

発災当時の課題

- 1, 避難所は物資がすぐに届かない→どう対応する
- 2, 避難所のトイレが使えない
※ みんなが使ってしまう
- 3, 食事が無い時は、みんなで作る
- 4, すべての事は、みんなで協力して行う
- 5, ルールは、いつ作るか？



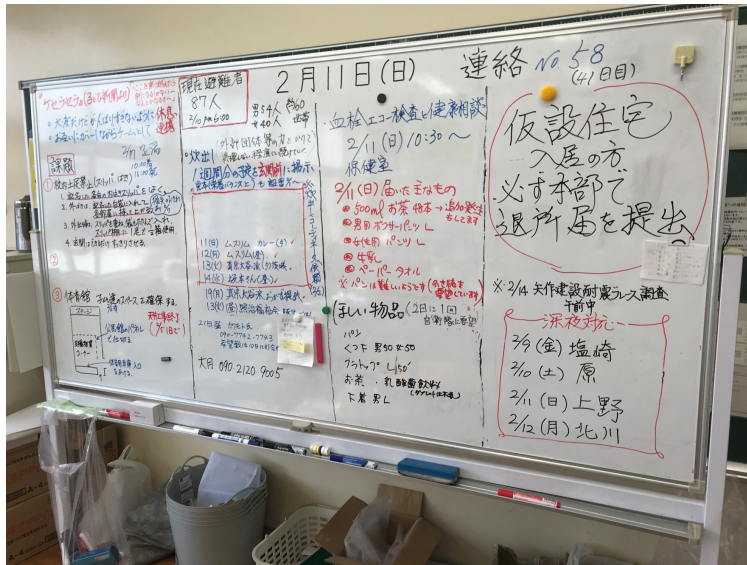
正院小学校（1月29日現在）



正院小学校（4月14日現在）

- この支援物資の整理は肉体労働です。
- 避難所に避難している人たちは、高齢者がほとんどだったので、私たちがこのお手伝いをしました。
- 手伝ってくれる人は⇒探してみる
- 自宅や自主避難（自宅避難）のかたづけで人手が不足。

奈良県防災士会の支援活動 支援一覧①



正院小学校では、毎日18時から避難所運営会議

	活動期間	活動場所	活動人数
先遣隊 (第1陣)	1月28日~29日	石川県珠洲市	2人
第1次 (第2陣)	2月10日~12日	珠洲市	9人
第1次 (第3陣)	2月17日~18日	珠洲市	2人
第1次 (第4陣)	3月2日~9日	珠洲市	1人
第2次 (第5陣)	3月16日~17日	能登町	12人

先遣隊 (第1陣) ① 1月28日~ 29日



先遣隊 (第1陣) ③ 1月28日~ 29日



能登半島地震 支援一覧②

	活動期間	活動場所	活動人数
第3次（第6陣）	4月12日～19日	珠洲市正院小学校	1人
第3次（第7陣）	4月13日～15日	珠洲市正院小学校	1人
第3次（第8陣）	4月13日～22日	珠洲市（レスキューアシスト）	1人
第3次（第9陣）	4月30日～5月2日	珠洲市正院公民館	1人
第3次（第10陣）	5月9日～13日	珠洲市（レスキューアシスト）	1人

第3次（第10陣）5月9日～13日



能登半島地震 支援一覧③

	活動期間	活動場所	活動人数
第4次（第11陣）	5月11日～12日	珠洲市	7人
第5次（第12陣）	6月15日～16日	珠洲市	10人
第6次（第13陣）	7月27日～28日	珠洲市・能登町・羽咋（はくい）市	5人
第7次（第14陣）	9月14日～15日	珠洲市・能登町・羽咋（はくい）市	8人
第8次（第15陣） 先遣隊	10月7日～8日	珠洲市	2人

第4次（第11陣）5月11日～12日



珠洲市上戸地区被災家屋での活動（10月8日）



家財道具の運び出しの前に、まず動線確保（泥出し）

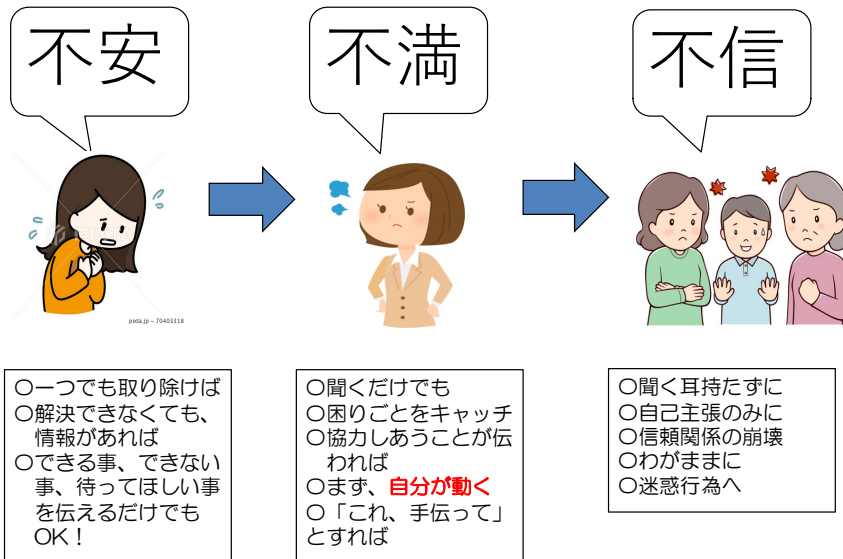
豆知識！

災害直後、行政の動きを知っておこう！

直後	1週間後～	1ヶ月後～
<ul style="list-style-type: none"> ・捜索、救助 ・保健・医療 ・避難所開設 ・応急救護物資 ・ご遺体対応 ・行方不明者対応 ・被害状況把握 ・ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・がれき処理 ・本人証明 ・被害認定 ・応急救護物資 ・り災証明 ・ライフライン復旧 ・応急仮設住宅対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・見舞金 ・まちづくり ・産業支援 ・復興関連業務

これらは全て、通常業務以外にしなければならない業務ですよ

～被災者心理の移り変わり～



災害ボランティアの活動例



災害ボランティアと聞けば、外部からのボランティアや支援団体などと思っていませんか？ そうではありません！
災害時に**地元の人たち**が行う活動も**災害ボランティア**活動です。

南海トラフ地震

今、日本で一番心配されているのは

南海トラフ地震！

- 最悪の場合死者32万3千人とも
- いつ、起こっても不思議ではない

誰もが、必ず、
南海トラフ地震に遭遇します
この事実を知っておくことです。

注意！ 南海トラフ地震の前後には局地的地震
(活断層型地震)が頻発しやすい

最後に・・・

災害への取組みは、
他人事でなく自分のことです。

日頃できていないことが、災害時にできる訳が
ありません。
日頃からの気持ちと準備が大切です。

まず、自分が動くことから始まります。

南海トラフ地震！

奈良県には“津波”が来ないから安心



でも、震度6強の揺れは襲ってきますよ！

第一部、おしまい。お疲れさまです。



特定非営利活動法人 奈良防災士会 植村信吉

第二部 ワークショップ

～避難所の課題と解決策を考える～

実際の避難所では、様々な課題が起こります。
そして、それをどう解決（処理）して行くのかが問われるのです。

今日お出しする課題は、能登半島地震発生時から珠洲市正院小学校で避難所運営に関わった大月真由美（日本防災士会副理事長、石川県防災士会副理事長）さんが、ご自分の経験をもとにワークショップ用に構成・作成されたものです。
今日は、大月さんのご理解を得て皆さんの研修用に加工させていただきました。

では、各グループに別れて下さい。

課題1

避難所には800人程の避難者がいて、避難所及び避難所駐車場の“どこに誰がいるか”わからない状態になっている。

<解決方法>

<事前にできたこと>

皆さんには避難所を運営する立場に立って、どのように対応して行くか？を考えて頂きます。
考え方としては、以下の2点に絞って下さい。

- 問題に対しどのように解決できるかを具体的に行動レベルで考える
- この問題を防ぐ、または最小限にするには事前にできることは何かを考える

では、スタートです。

課題2

避難所を開設したが……。誰が避難所運営を担当するの？
また、どんな担当が必要？

<解決方法>

<事前にできたこと>

課題3

避難所のトイレが大変なことになっている。

<解決方法>

<事前にできたこと>

課題4

避難所に物資が届くようになった。
しかし、玄関先に荷物が山のようにになっている。
どうしたらいい？

<解決方法>

<事前にできたこと>

課題5

避難所の支援物資を在宅避難者が夜や早朝に持っていくと被災者同士で言い争いをしている。

<解決方法>

<事前にできたこと>

課題6

行政からのお知らせや通知が放送で流されているが、
高齢者やその時にいない人への情報が伝わらない

<解決方法>

<事前にできたこと>

今日は、ここまでとします

